

番号	81	七八災害復興之碑		
所在地	鹿島市三河内 中川内地区			
災害別	昭和37年(1962) 水害			
目的別	記念碑	建立年	昭和41年10月	
特記事項	碑文判読困難			



鹿島市を流れる中川支流の早ノ瀬川と木庭川の合流地点付近に建つ昭和37年7月8日水害の復興碑。地元で七八災害と呼ばれるこの水害は、鹿島市・太良町を中心に大きな被害をもたらした。碑文は摩耗風化して判読困難。「鹿島市災害史」(昭和54年12月20日発行 佐賀県鹿島市立図書館)によれば、この災害を契機に本格的な川幅拡張・強固な護岸の人工河川化へと歩みだしたとのことである。碑文には、おおよそ次のようなことが刻まれている

「昭和廿七年七月八日佐賀県西部を襲った局地的集中豪雨は八百ミリを超える降雨量を記録した為中川内区内に於いても山林等の崖崩れが相次ぎ口に河川は空前の大氾濫を来し膨れ上がった濁流はあらゆる橋梁を押し流し堤防を決潰し区内水田凡そ三分の一は・・・下に覆い尽され



国土地理院電子国土 Web

又道路口樋は□□流失□□更に河川や沼□の人口□は皆家□道井米麦等一切□にて□□し
迫る眼前の危難に□した・・・した部落の復旧は激甚地指定を受けたことに□る□国庫支
出経費□□遂に総工費貳億参千六百・・・国費の費用□昭和□一年五月から□□年・・・
縣市□つて精進努力に依って・・・水田橋梁道路等の・・・護岸工事の完工は父祖伝来
の・・・新しき時代の雄飛する・・・たと言えるのである」 昭和四十一年十月 中川
内地区建立（原文はカタカナ表記）

